

地震による家具の転倒

— 私たちが守る家族の安全 —

7 月16日に発生した新潟県中越沖地震。報道によると、今回目立った被害の一つが「家具の転倒」とのことでした。また、平成7年発生の阪神・淡路大震災における震度7の地域では、住宅の全半壊をまぬがれたにもかかわらず、全体の約6割の部屋で家具が転倒し、部屋全体に散乱したというデータもあります。

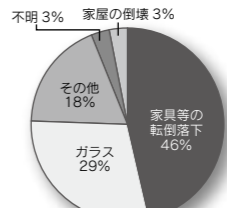
建物が無事でも、家具の転倒や散乱によって下敷きになったり、逃げ遅れたり、ガラス類で負傷し

たりするなど、人的被害が多く発生するようになります。室内での人的被害を防ぎ、安全な避難経路を確保するためにも、家具を固定しておくことなど「備え」が重要となるのです。

9月1日は「防災の日」。家庭での防災に対する備えは万全ですか？非常用持ち出し品などを確認するほか、地震の揺れから自分と家族の生命身体を守るため、家具の置き場所や転倒防止対策も見直していきましょう。

■内部被害による怪我の原因

調査数130人



■各室の散乱状態「震度7の地域」と「災害救助法適用地域」343戸

居室	一面に散乱		半分散乱		散乱なし	不明
	家具が転倒、積み重なる	一部散乱	家具が転倒、積み重なる	一部散乱		
主寝室	26%	12%	10%	24%	19%	9%
居間	21%	17%	13%	25%	15%	9%

■主な家具の被害状況「震度7の地域」と「災害救助法適用地域」

家具	移動で被害あり			被害なし	不明
	倒れた	動いた	移動で被害あり		
本棚	52%	19%	1%	25%	2%
食器棚	34%	5%	1%	34%	3%
洋たんす	30%	2%	1%	42%	2%
ピアノ	10%	6%	1%	57%	4%

440戸、398戸、374戸、140戸

グラフはすべて日本建築学会「阪神淡路大震災 住宅内部被害調査報告書」より



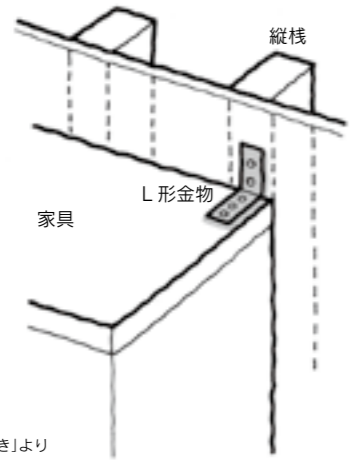
家具の固定と配置などの工夫

家具の転倒を防ぐためには、家具を柱や鴨居、壁などに固定することが一番良い方法ですが、壁に使われているボード類に直接固定金具で留めても効果がありません。ボード面を軽くたたきなどして、下地の材を探して留めることが重要となります。テレビや電子レンジは、置き

台から滑って飛んでくることもあるので、台と本体をしつかり連結しておきましょう。テレビやピアノなどキャスターの付いた物は、地震時に動き出すため、転がり防止策が必要です。建物の構造などによってさまざまな制約が加わり、うまく家具を固定できないこともあります。

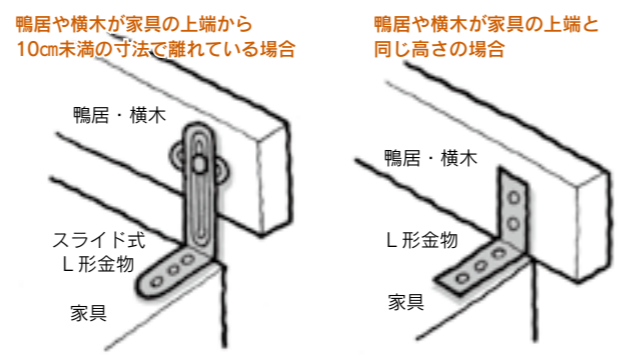
す。このような場合、少しでも安全を確保するために、家具の配置を見直したり、就寝時の布団を敷く場所を工夫したりすることなども大切です。なお、転倒によって避難路を絶たれないよう、できるだけ出入口付近に家具は置かないようにしましょう。

1 棧に直接固定する方法



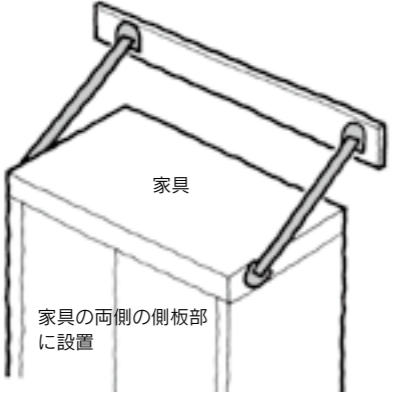
「家具転倒防止等の手引き」より

2 鴨居や横木への固定方法



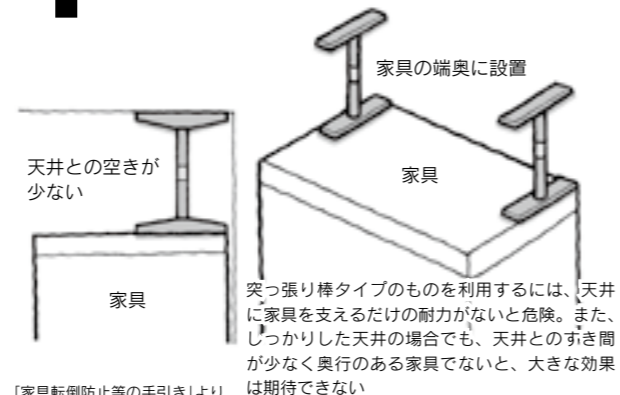
「家具転倒防止等の手引き」より

3 棧などに直接に固定できない場合の固定方法(例1)



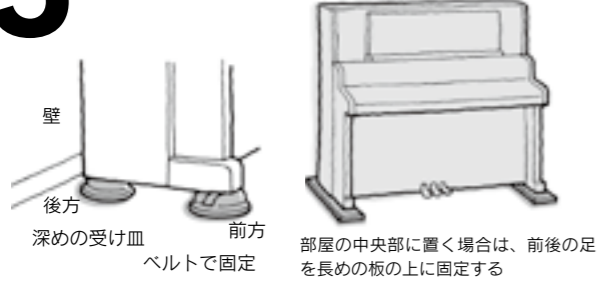
「家具転倒防止等の手引き」より

4 棧などに直接に固定できない場合の固定方法(例2)



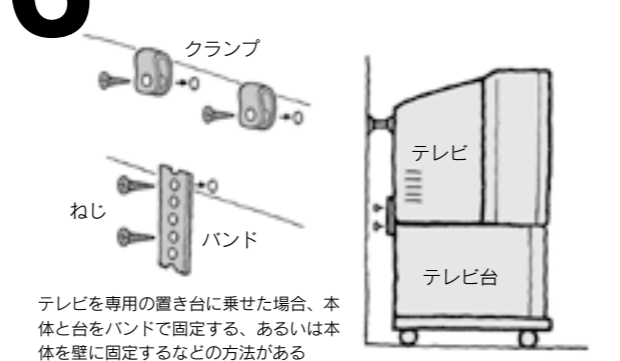
「家具転倒防止等の手引き」より

5 ピアノの固定方法(あるメーカーの対策例)



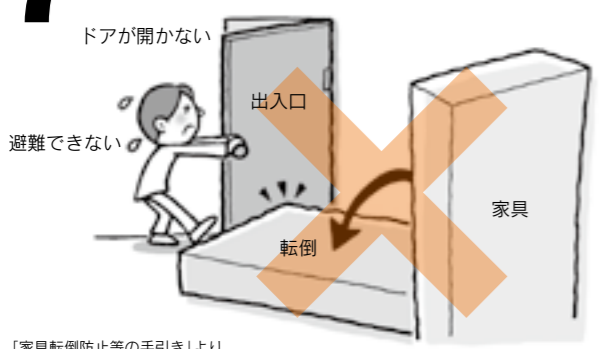
※まずは専門知識のある、販売店やメーカーに問い合わせてみましょう

6 テレビの固定方法(あるメーカーの対策例)



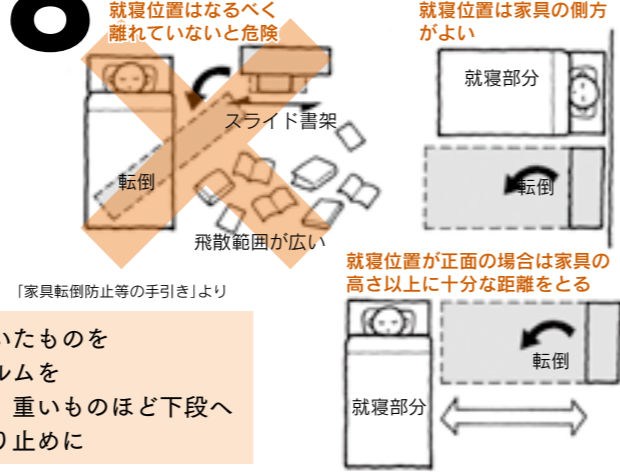
※まずは専門知識のある、販売店やメーカーに問い合わせてみましょう

7 家具配置などの工夫(例1) 家具と出入口



「家具転倒防止等の手引き」より

8 家具配置などの工夫(例2) 家具と就寝位置



「家具転倒防止等の手引き」より

- こんな工夫も大切です!!**
- 吊り戸棚の扉にはロック機構の付いたものを
 - 食器棚のガラスには飛散防止フィルムを
 - 重心を下げて倒れにくくするため、重いものほど下段へ
 - ゴムのシートを敷いて食器類の滑り止めに

予測が難しく、一瞬の揺れで日常を奪い去ってしまう恐ろしい地震災害。被害を最小限に食い止めるためには、普段からの心構えと準備が大切となります。今回示したのは「備え」の一例です。このほかにも、家族で何が必要か話し合い、災害に備えましょう。